

# スズキ社長講演会「スズキのものづくり」を開催！！

システムデザイン学部では、2019年10月31日（木）日本自動車工業会と共催で「スズキ株式会社取締役社長による特別講演 スズキのものづくり」を開催しました。



## 日本自動車工業会 大学キャンパス出張授業 2019

今回の鈴木俊宏社長による講演は、一般社団法人日本自動車工業会が若者の「クルマ・バイクへの関心醸成」「自動車産業・ものづくりへの理解促進」を目的に実施している『大学キャンパス出張授業※』の一環で行われました。今年で7年目を迎え40キャンパスで行われてきた本企画ですが、首都大学東京で開催されたのはなんと今回が初。今回の講演で来校されたスズキ株式会社は、多くの首都大生が就職している会社で、本学ととても縁のある企業の1社です。



▲会場の様子

※自動車メーカーの社長をはじめとしたトップクラスが自ら大学へ赴き、クルマ・バイクの魅力、日本のものづくりの重要性を大学生に直接語りかけるもので、全国の大学と連携し2013年から毎年実施

# 会場は満席、立ち見が出るほどの大盛況！

講演が始まる 13 時には 311 席ある講堂小ホールは満席で、立ち見が出るほど盛況となりました。今回の講演に対する皆さんの注目度の高さがうかがえました。司会のシステムデザイン学部機械システム工学科長谷教授の紹介で、鈴木社長が登場。ホールに独特な緊張感が漂う中、講演がスタートしました。



▲司会は機械システム工学科の長谷教授



▲立ち見が出るほどの盛況ぶり

## スズキの精神「やらまいか」

講演会の冒頭、鈴木社長からは「首都大学東京南大沢キャンパスには初めて来たが、とても自然豊か。イノシヤやタヌキが出ると聞いて静岡に似ていると感じた。うちには加えて鹿も出ます。」との親しみやすいお話しには、会場から笑い声も起きました。

### 【鈴木社長プロフィール】

- ・1959 年静岡県生まれ。入社後、設計・生産・商品企画を歴任。
- ・2011 年に副社長、2015 年 6 月より社長。



▲来場者の様子

講演の中では、静岡県西部「遠州」の方言で、「やってやろう」「やってみよう」という意味を持つ「やらまいか」がスズキの精神になっていること、「これから求められるモビリティを若い世代の発想で考えつくってもらいたい」といった社長の『ものづくりへの想い』が語られました。

また、特有の事業としてインドでの販売体制や今後の戦略などの紹介があり、スズキがインド市場においてシェア約 50%という圧倒的シェアを確保している点についての説明がありました。初めて知った学生や驚いた学生もたくさんいたことと思います。



# お客様の“ワクワク”は 社員の“ワクワク”なしでつukれない

「失敗しても良い。とにかくチャレンジして欲しい」  
「お客様がワクワクするものをつくるには、スズキの社員がワクワクしたものでなければいけない」  
「ネットワークは財産である。今の友人を大切に、会社の組織でできないことを、そのネットワークで壊し果敢にチャレンジして欲しい」  
「お客様が新しく何を求めているのかを考え続けて欲しい」  
といった学生に向けた大切なメッセージをたくさんいただきました。



▲参加者の真剣な“まなざし”

## “皆さんの世代だからこそ描ける未来がある”

講演会の後半の質問タイムも多くの参加者が直接鈴木社長に質問しました。

「インドではどうしたら完全電動化ができますか？」という質問には、「インドではまだ家庭に電力が行き届いていない状況。皆さんに期待したいのは、そういった都市の場合、“そもそもどういう都市にしたらEVが機能するのか”というところから想像力を発揮して考えて欲しい。皆さんの世代だからこそ描ける未来があると思っている。」といった熱いメッセージも。

「自動車に欠かせない点検整備などに関するインフラ整備の戦略はありますか。」という踏み込んだ質問にも、「点検整備は大切。これからの時代はIT技術が盛んに取り入れられるようになり、VR、ARなどを駆使して作業工程をレクチャーしたり、画像処理を取り入れるなどの工夫が必要なのではないか。他にも、センサーを利用して点検前に整備箇所を発見するシステムも可能だと思っている。工場の規模にかかわらずIT技術の革新でそれが可能になってくるのではないかと熱心に答えてくれる社長の姿に感銘を受けました。



▲社長に質問する学生



## 大学広場に広がるバイク音

特別講演の後、来場者は大学広場に集まりスズキの乗用車、バイクに触れる時間が設けられました。晴天に恵まれた緑豊かなキャンパスにカラフルな4台の乗用車とスタイリッシュな3台のバイクが展示され、写真撮影に没頭する学生やバイクに試乗する学生という今までにない大学の光景が広がっていました。大学広場周辺に重厚なバイク音が響いていました。



▲緑のキャンパスに映えるバイク



▲車両展示の外観



▲講演会後の展示周辺の賑わい



# photo



▲談笑する鈴木社長（中央左）と上野学長（中央右）



▲展示車両に興味深く観察する学生



▲鈴木社長と談笑する学生



▲鈴木社長に熱心に質問



▲スズキの担当者さんも優しく教えてくれました



▲バイクの試乗には常に人だかりが



## 学生インタビュー①

システムデザイン学部 3、4 年、都市環境学部 M2 の学生さんに講演会の感想を聞いてみました。

「わかりやすく楽しかった！！」「特に印象に残ったのは『未来から逆算する』というメッセージ。インドの自動化は難しく、逆に言えばそれは自分たちにとって新しいチャレンジにつながるチャンスだと感じました。」とのことでした。



## 学生インタビュー②

熱心に車両を見ていた自動車部の学生さんにも聞いてみました。

「情熱が伝わってきた」「インド市場のシェアにびっくりした」「トライ&エラーの大切さを学んだ」「日本より海外の打ち上げが多く、7割が海外であることに驚き強く印象に残っている」とのことでした。

写真は法学部の柴山さん、システムデザイン学部の空岡さん、理学部の津金さん、都市環境学部の伊東さん、鳥取さん。ご協力ありがとうございました。



## 担当者後記

### “情熱”と“トライ”する大切さを学び、 お客様（学生）のためにできることを追究したい

本講演の事務を担当し、改めてスズキ株式会社の独創性を作り出している鈴木社長の器の大きさを感じ、またそれに触れた本学の学生の皆さんの情熱を感じることができました。鈴木社長の「お客様が何を求めているのかを考え続けて欲しい」というメッセージは、我々大学職員にとっても同様で、“お客様”でもある学生の皆さんに対し、常に“何ができるのか”を考え続けることが大切であると、改めて考える機会をいただきました。

日本自動車工業会、スズキ株式会社の皆様には多大なご尽力をいただきありがとうございました。

発行月：2019年11月

発行：日野キャンパス管理部管理課庶務係企画担当